

第 181 号 発行日 平成 24 年 2 月 7 日

合格通信

今
月
の
名
言

人生をもっとも偉大に使う使
い方というのは、人生が終わっ
てもまだ続くような何ものか
のために使うことである。

-ウイリアム・ジェームズ-
(アメリカ心理学者)

これは、塾生のみなさんと、特進スクールを訪れてくれた、小中高校生の皆さんとお問い合わせ
いただいたお父さん、お母さんに向けて、勉強法や受験に役立つ話題をお届けする情報誌です。

塾経営雑感



子どもの進路を親が決める

それではどういうのがいいかというと、私はズバリ、あなたが子どもに対して
「お母さんは、だれよりもあなたのことをよく知っている。お母さんの言うことをちょっと聞いて
ちょうだい」と言い、そして、

「あなたは小さい頃から、本当に するのが好きで、それをしているときは、いちばん生き生
きして楽しそうだったのよ。そのあなたの興味を生かせるのは、お母さんの考えでは じゃない
かなと思う。その方向に進むことを考えてみたらどう？きっとあなたに合っていると思うよ」
ということを書いてあげることだと思います。

親が心をこめて、真剣にこのように言えば、それは必ず子どもの心に入っていきます。
むずかしい年頃ですから、表面的には聞こえたのかどうなのかわからないような、そんなそぶり
を見せるかもしれません。

「うるさいなあ、自分のことは自分で決めるからほうっておいてよ」
と言うかもしれません。けれども、そんな表面的なそぶりに気持ちを揺るがしてはいけません。
どんな態度をとろうとも、子どもにとっては、母親、父親というのは、とてつもなく大きくて大切
な存在なのですから、それらはすべて表面だけのものであると知ってください。

まずは心をこめて書いてあげましょう。子どもはすぐに受け入れて「うん、そうする」と言うか
もしれません。すぐにはそう言わなかったけれども、時間をかけてゆっくり考えて、いずれ、「お
母さんのいうとおりだな」と思うかもしれません。

もしかすると親が書いてあげた方向とは、別の方向を見いだして進むことになるかもしれません。
けれどももしそうなったとしても、その道はどのようにして子どもの頭に浮かんだのかというと、
親が最初に提案してあげた方向をよく吟味したからこそ出てきたのです。親の提案したものと照ら
しつつ、新しい方向を見いだしたに違いないのです。

親が提案した進路は、否定されたのでも無視されたのでもなく、子どもが独自の道を見いだすた
めの土台、基準となったのです。親が一生懸命になって子どものために思いやってあげたことが、
子どもの心に残らないはずはないのです。